



＜熱した鉄棒を金槌で整形する様子＞

「古代の鍛冶体験」の様子

平成22年10月9日(土)に実技講座「古代の鍛冶体験」を実施し、平成21年の「鉄づくり」イベント(まほろん4号炉の操業)でできた鉄を素材に、参加者の皆さんが古代の鍛冶屋さんに挑戦しました。

昔はどの町や村にも鍛冶屋さんがいて、炭火の中で熱した鉄をトンテンカン叩いて鉋や鎌などの鉄の道具を作ったり修理したりしていましたが、農林業が機械化するに従い鍛冶屋さんによる手作りの道具の需要が減り、次第に町や村からトンテンカン鉋打つ響きが聞こえなくなりました。

今回の「古代の鍛冶体験」では、奈良時代の白河郡役所に関連する泉崎村関和久上町遺跡から見つかった工房跡をモデルにして作業場に鍛冶炉を3個並べ、県内でただ一人の刀鍛冶・藤安将平さんの指導の下、同村観音山北横穴墓から出土した蕨手刀(柄がワラビのような形をした刀)をモデルにしたペーパーナイフをつくりました。

炭火の中で鉄棒の先を熱し、刃の部分をトンテンカン叩いた後、全体を整形し、柄にカラムシの糸を巻き上げて完成です。参加された方々は、全員、初めての体験でしたが、それぞれ個性的な作品に仕上がりました。また、大鉋(8kgの重さの金鉋)で鉄を鍛える鍛錬も行いました。作業場内の3箇所の鍛冶炉付近からそれぞれ響いてくる鉋の音を聞いていると、今から約1,250年前の白河郡役所の付属工房に響いた鉋の音が甦った感じがしました。

なお、完成したペーパーナイフは、まほろん常設展示室の「みんなの研究広場」コーナーで展示中です。

体験学習

「まほろん森の塾」

「まほろん森の塾」は、年間を通して古代の生活や文化について学ぶ体験学習プログラムです。今年度は、小学4年生から中学1年生までの11名が第10期生として活動を行ないました。

日程や体験メニューは年によって異なりますが、今年度の内容は次のとおりです。

- ① 5月22日 結団式
- ② 6月19日 縄文時代の装身具づくり
- ③ 7月17日 七夕飾りづくり
- ④ 9月18日 古代の食生活体験
- ⑤ 10月16日 土偶づくり
- ⑥ 11月27日 土偶の野焼き
- ⑦ 12月18日 解団式

各回の様子については、まほろんのホームページ内の「まほろん森の塾の記録」にてご覧いただくことが

実技講座「家族で土偶・土面をつくろう」

ふくしま里帰り展『ふくしまの土偶』にちなんで、まほろんでは昨秋、土偶に関連した催しが目白押し。当講座も、その一つ。11月6日（土）に製作した土偶・土面を、11月27日（土）に野焼きしました。

参加者は7組の家族、14名の皆さんです。遠くは会津若松市やいわき市からも参加され、楽しく土偶・土面づくりに挑戦しました。

土偶のつくり方は、大きく分けて3種類あります。①一枚の粘土板でつくる方法、②いくつかの部品を別々につくる方法、③土器のように粘土ひもを積み上げてつくる方法です。多くの方が②の方法で、自分の足で立つ土偶をつくってまいりました。

参加者のおひとは遮光器土偶に挑戦。③の作り方で、中が空洞。つくるのがとても難しい土偶です。

土偶の顔は、千差万別、さまざまな表情がありまし

実技講座「古代の印章づくり」

10月23日（土）に実技講座「古代の印章づくり」が行われました。参加者は、地元白河市周辺の方々や同市在住の外国の方も参加され、国際色豊かな講座となりました。

印章は、古代から木・竹・石・角・象牙・金属・合成樹脂などの素材でつくられています。その一面に文字やシンボルを彫刻し、個人・官職・団体のしるしとして公私の文書に押し、特有の痕跡（印影・印痕）を残すことにより、その責任や権威を証明するものです。現在でも、印章は私たちの日常生活の中で公私の責任を示す物として重要な位置を占めています。

参加者は、名前やマークなどを自由にデザインし、材料の高麗石に転写して、専用の小刀で刻するという細かい作業に熱心に取り組みました。細かい作業のため、



＜里芋の収穫の様子＞

ですが、いずれも日常生活や学校の授業では体験できないものばかりです。特に、ここ数年は、塾生たちが自分たちで作物を育て、調理して食べるといった食育体験にも力を入れています。

なお、来年度（平成23年度）の「まほろん森の塾」の詳細は、平成23年3月頃にまほろんホームページなどでお知らせいたします。ご期待ください。



＜遮光器土偶に挑戦!!＞

たが、不思議なことに土偶の顔が製作者の顔に似ているように思われました。

11月27日（土）、製作から3週間たち、すっかり乾燥した土偶を野焼きしました。朝9時から午後3時まで、6時間ほどかけてじっくり焼き上げ、世界に一つだけの土偶が完成しました。



＜印章の完成です!＞

拡大鏡を使用したり、悪戦苦闘しましたが、参加者の皆さんはオリジナルの印章を完成させ、満足していただけようです。

企画展示案内

指定文化財展

「ふくしまの重要文化財Ⅷ 関和久官衙遺跡」

会期：平成 23 年 1 月 15 日（土）～ 2 月 13 日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

福島県内の重要文化財を紹介するシリーズの第 8 弾です。今回は、平成 16 年に福島県重要文化財に指定された関和久官衙遺跡の出土資料を紹介します

関和久官衙遺跡は、西白河郡泉崎村関和久に所在し、昭和 47 年から 10 年間にわたり福島県教育委員会によって発掘調査が行われた遺跡です。

発掘調査の結果、総柱礎石建物跡や掘立柱建物跡で構成される正倉群（穀倉）や塀で囲まれた掘立柱建

物跡などが確認され、古代白河地方の郡衙（役所跡）と判明したことから、昭和 59 年に国の史跡に、さらに平成 16 年 3 月に出土品の一部が福島県の重要文化財に指定されました。



＜墨で「厨」と書かれた土器＞ 今回の展示では、発掘調



＜まほろん野外展示「奈良時代の倉庫」＞



＜ 2 号建物跡（まほろん野外展示「奈良時代の倉庫」のモデル）＞

査当時の写真や正倉群（穀倉）から出土した瓦類、白河郡を示す文字や建物の機能を想定することができる「厨」などの文字が墨書された土器類を多数紹介し、7 世紀末から 10 世紀後半の時期に古代白河郡を統括した白河郡衙の実像を探ります。

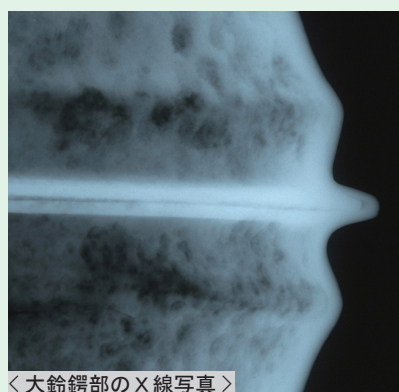
シリーズ復元展示

中田横穴墓出土馬鈴の復元

まほろんでは、開館時に復元製作した白河市第 37 号横穴墓から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県の古墳時代金工技術の地域差から、その社会背景に迫り、さらには古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目的として、平成 17 年度からいわき市中田横穴墓（古墳時代後半、6 世紀末）出土馬具類を復元製作しています。

平成 20 年度までに、金銅装の木製鞍・尻繫・鐙、革製の障泥を製作し、昨年度は馬鈴を製作しました。

中田横穴墓からは大（径約 11 cm、金銅製）中（径約 5 cm、銅製）小（径約 3 cm、金銅製）3 種類の馬鈴が出土しています。これらの馬鈴は、非破壊の蛍光 X 線分析を行った結果、いずれも銅の強い反応があるのに対し錫の反応が全くないことから、青銅製（銅と錫の合金）ではなく、純銅製であることが分かりました。



＜大鈴鐺部の X 線写真＞

純銅は溶解温度が高く溶解しても流れが悪いことから、鑄造には適しません。また、肉眼観察及び X 線写真撮影したところ、いずれも上半部と下半部は鐺の部分で下半部の端部を上半部の端部に被せる



＜復元途中の大鈴＞



＜馬鈴の復元品＞

ことによって合体させていることが分かりました。以上から、中田横穴墓の馬鈴は鍛造品であることが推測されました。これは、国内から出土している当時の馬鈴の多くが青銅製の鑄造品であることと対照的です。

これらの結果を基に、銅板を温めては、木槌や専用の木型・タガネを使って叩くという作業を繰り返し、馬鈴を復元製作しました。さらに、表面の仕上げには金箔を貼り、中には鉄の丸を入れました。

（専門学芸員 能登谷宣康）

研修だより

考古学基礎講座Ⅳ「福島県考古学研究史—中通り—」

開催日時 10月2日(土)

外部講師 木本元治氏(国見町教育委員会)

この研修は、福島県の考古学史を県内各地の研究者の業績から学び、地域史理解を深めるものです。

福島県内を東から浜通り・中通り・会津の三地方に分け、昨年度の浜通り地方に引き続き、今年度は中通り地方となります。

研修では、昭和50年代の東北自動車道や東北新幹線建設に伴う発掘調査について、当時の調査担当者の一人である講師から、調査や研究の成果を講演していただきました。現在のような発掘調査法などが確立していないため、様々な試行錯誤を繰り返したことや、



＜講師による遺物の説明＞

苦労話などを交えた内容となりました。

受講者の大半は、現在も発掘調査に従事している人たちでしたが、皆さん熱心に聞き入っていました。

本年度のおでかけまほろん

本年度の館外体験学習事業「おでかけまほろん」は、4月から12月までの9ヶ月間で、29校の学校を訪問して実施しました。これらの学校の内訳は、小学校が最も多く25校で、中学校が3校、養護学校が1校です。県内各地域別では、会津6校、県北5校、県中7校、県南2校、いわき9校で、いわき地域の学校で最も多く実施しました。

おでかけまほろんを実施した学年は、社会の授業で歴史が扱われる小学校6年生が14校と最も多く、次に5・6年生合同が10校となっています。小規模校では小・中学校合同で行った所もあり、中学生が小学生の火おこしをサポートする微笑ましい光景も見受けられました。中学校単独では1校が全学年参加で実施しました。

体験内容では、火おこし体験が23校と最も多く利用されました。喜多方市立高郷小学校では、火おこし体験を応用して、縄文土器のレプリカでお湯を沸かす実験を行いました。まほろん収蔵の本物の土器や石器に触れる土器さわり体験は20校で行いました。授業にあたっては、学校のある地域から出土した資料を持参しており、好評をいただいています。弓矢体験は15校で、勾玉づくり体験は10校で実施しました。こ



＜火おこし体験(いわき市川前小・中学校)＞



＜土器さわり体験(いわき市好間第四小学校)＞

のほかに、1校で毬杖体験を実施しました。

来年度の「おでかけまほろん」は、1月末に募集を開始する予定ですので、ぜひ、お申し込みください。詳しくは、まほろんホームページをご覧ください。

まほろんからのお知らせ

2・3月のまほろんイベント

2月20日(日)には、楽しいイベント盛りだくさんの「まほろん冬まつり」、3月12日(土)には、「第8回毬杖大会」を行います。毬杖は、奈良時代に始まった杖で毬を打ち合う遊びです。なお、「第8回毬杖大会」は事前に申し込みが必要となります。参加ご希望の方は、まほろんまでお問い合わせください。

ご利用案内

開館時間	9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月4日)
入館料	無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)
その他	団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。